

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護概論		益田 裕子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	地域看護 在宅看護の対象者 訪問看護 多職種連携 について				
到達目標	在宅看護の背景（歴史・制度）から生活の場における在宅看護の必要性和目的を理解する				
事前学習	自分の住んでいる地域を知る（調べ学習）				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護の概念 在宅看護の背景、在宅看護の目的と特徴
2	地域包括システムにおける在宅看護、多職種・多機関連携について 地域療養を支える制度（社会資源の活用、社会保障制度）
3	在宅看護の対象者「療養者」 ・療養者の権利と看護職の倫理
4	在宅看護の家族 ・看護の対象の場と環境（衣食住環境、生活様式と価値観） ・療養者を抱える家族の問題
5	地域と在宅看護 ・地域の特徴と現状、地域を支える職種、医療・福祉、社会資源 ・地域における看護師の役割
6	訪問看護について ・訪問看護の目的・機能・特徴 ・訪問看護活動（サービスの内容、流れ等）
7	訪問看護について ・訪問看護の特徴（QOL、自立支援、自己決定、セルフケア等） ・訪問看護が抱えている問題（法的問題、経済性、連携の問題 他）
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院 在宅看護論 第4版 木下由美子 医歯薬出版株式会社 クイックガイド 在宅ケア 学研 国民衛生の動向
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論Ⅰ（状態別看護）		山城 歩 益田 祐子		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	1（30）	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対象となる疾患の症状・状態 看護の要点 在宅看護介入				
到達目標	在宅看護の各疾患について理解し、在宅における事例展開を理解する。				
事前学習	レポート（脳卒中、パーキンソン病、ALS）				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護の介入時期別の特徴（訪問看護について・対象者の理解・制度の理解）
2	独居高齢者の看護展開について（独居世帯の状況・療養生活のアセスメント等）
3	認知症の療養者に対する看護 （症状の理解・問題行動への対応・家族支援・社会資源の活用等）
4	ALSで人工呼吸器療法中の対応について（疾患の理解）コミュニケーション方法等
5	ALS看護の実際・自己決定の支援・家族支援・チーム連携・社会資源の活用
6	終末期（癌）療養者の看護展開（症状の理解）
7	終末期（癌）看護の対応 （アセスメント・観察の視点・家族支援・制度面等の理解度等）
8	脳卒中罹患後の対応について（症状・看護の実際・環境・家族支援等）
9	パーキンソン病の事例展開（症状・合併症の理解）
10	パーキンソン病の事例展開（看護の実際・社会資源の活用等）
11	COPDの看護展開（症状の理解・看護の実際）
12	COPDの看護展開（環境調整・社会資源の活用等）
13	統合失調症の看護展開（症状の理解・傾聴技術・行動の理解等）
14	小児療養者の看護展開（小児の特徴・家族支援・社会資源の活用等）
15	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院 DVD パソコン プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論Ⅱ		重 しほ子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	在宅看護の援助技術 日常生活の工夫 在宅看護における医療技術				
到達目標	在宅における日常生活援助に必要な援助技術を学ぶ 在宅で行われる医療処置の方法を学ぶ 療養者やその家族の指導や相談方法を学ぶ				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護の基本技術 コミュニケーションと指導技術
2	日常生活援助へのアセスメント 環境調整 食事 排泄
3	日常生活援助へのアセスメント 清潔 休息と活動 リハビリテーション
4	やってみよう訪問看護演習(日常生活援助) ・訪問看護の場面を想定しロールプレイを行う ・訪問時の日常生活用具の選択と工夫 ・対象の状態や生活様式に応じた看護の体験 ・訪問時の基本的態度(マナー) ～事例～ ① 気管切開の患者に洗髪 ②上肢拘縮の患者のしゅよく ③ 下肢の拘縮のある患者のベッド上での足浴
5	
6	
7	
8・9・10 11・12	在宅医療技術 ・アセスメントと看護の実際 在宅酸素療法 人工呼吸器療法 膀胱留置カテーテル法 経管栄養法 胃瘻・腸瘻栄養法 ストーマ管理法 褥瘡管理 在宅中心静脈栄養、外来がん治療、疼痛コントロール管理 服薬管理(服薬指導)
13・14	日常生活におけるリハビリテーション・遊بریテーション ・個人 集団に対して
15	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院 パソコン プロジェクター ビデオ
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論Ⅲ（看護過程の展開）		山城 歩		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	1（15）	2年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対象に応じた看護過程				
到達目標	対象のニーズや多様な価値観を尊重した支援方法及び社会資源の活用方法を理解し、対象の状態に応じた在宅看護の展開方法を学ぶ				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅における看護過程の視点 ・アセスメントの視点（情報収集と分析、計画立案、評価） ・記録用紙について
2	情報収集と分析、問題の抽出 ～事例～ グループワークによる協同学習
3	ALS パーキンソン病 脳血管障害後遺症 など ・情報収集 ・関連図で全体像を捉える
4	計画立案 ・目標設定
5	・目標達成に向けての具体策 ・療養者、家族のニーズを捉える
6	事例による看護過程発表①（グループ） 評価 振り返り
7	事例による看護過程発表②（グループ） 評価 振り返り
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 在宅看護論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験 看護過程提出 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習 I		長井 安代 学内教員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
演習	1 (30)	2 年教室 看護実習室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	事例の対象に対し、複数の看護ケアを優先順位や各年齢を考慮し、患者の状態、状況にあった援助計画の立案、演習を実施する。				
到達目標	これまでの学習の中で修得した、各看護学で学んだ知識、技術を統合し、対象の状態に応じた看護を原則に基づいて正確に実践する能力を養う目的とする。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	事例の提示 小児、老年、成人 2 事例の計 4 事例
2	GW: プレゼンテーション資料作成①事例の発達段階、病態生理、症状、検査、治療、看護②関連図③援助計画
3	プレゼンテーション
4	各グループの発表、全体討議
5	4 事例について、各グループが立案した計画書をもとに技術練習を実施し、計画の修正を行う。
6	
7	
8	事例 1 小児: 3 歳 男児 気管支喘息 吸入・シーネ固定の交換実施
9	事例 2 老年: 85 歳 女性 右被殻出血後遺症 (左片麻痺・構音障害・嚥下機能障害) 口腔内・鼻腔内吸引、経鼻経管栄養を実施
10	事例 3 成人 I: 52 歳 男性 (女性) 心不全 酸素投与・膀胱留置カテーテル挿入・心電図モニター装着 事例 4 成人 II: 56 歳 男性 肺炎・MRSA 気管切開 ガウンテクニック、口腔ケア、気管内吸引
11	修正案をもとに、制限時間 20 分内で評価目標を達成できるようにグループごとに演習発表の練習・検討を実施する。
12	
13	
14	事例の技術について 演習発表と検討会 各グループから発表者 1 名
15	技術試験 1 名につき、4 事例中 2 事例の試験を実施
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I、II 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	技術試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅱ		池田 恵子・大庭 梨香 学内教員		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (45)	教室・実習室	前期・後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ステップⅠ. 医療安全に基づいた援助：ヒューマンエラーと医療過誤 ステップⅡ. 複数患者受け持ち多重課題に対し援助計画の立案・実施 ステップⅢ. 割り込み状況下での状況判断・優先度に応じた援助の実施				
到達目標	これまでの学習の中で修得した看護技術を統合し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用していくことができるよう臨床実践能力の強化。 複数受け持ち、多重課題、割り込み状況への対処、患者急変時の対応				
事前学習	医療安全・周手術期看護・採血・腰椎圧迫骨折患者の看護、運動麻痺の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	【オリエンテーション】統合演習Ⅱの目的と授業の進め方について ステップⅠ：医療安全、ヒューマンエラー、医療過誤
2・3	ミニストーリー（ヒヤリ・ハット事例）についてグループワーク 医療事故防止啓発ポスター作成・発表・ディスカッション
4	講義：診療の補助に関わる事故：与薬・注射の事故 輸液ポンプ・輸注ポンプによる事故
5・6	転倒事故についてのグループワーク・ロールプレイ
7	講義・演習：医療者間のコミュニケーション（チームの鎖・S B A R）
8	ステップⅡの演習の進め方 ・ 事例提示
9	事例に沿って文献学習
10	行動計画の立案・優先順位の根拠
11	実際に演習した上で行動計画の修正（記録用紙に記載）
12	実際に演習した上で行動計画の修正（記録用紙に記載）
13・14	立案した行動計画をグループ毎に発表
15	演習発表内容についてディスカッション・まとめ
16・17・18・19	ステップⅢ：割り込み状況下での状況判断、優先度に応じた援助の実施
20・21・22	技術試験
23	筆記試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	基礎看護技術、看護技術プラクティス、医療安全ワークブック 他
成績評価の方法	筆記試験・技術試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究		寺師 敬子 看護学科教員		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・情報処理	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	ケーススタディとは、文献検索、研究計画書の作成、研究論文、抄録の作成				
到達目標	看護過程の客観的な検討、研究論文作成、論文発表、評価				
事前学習	実習記録・患者情報の整理				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義：ケーススタディとは何か。事例選択の方法、論文のまとめ方
2	講義：論文の書き方（テーマ、序論、事例紹介、看護の実際）
3	講義：論文の書き方（考察、結論）演習：テーマの選出
4	演習：研究計画書の作成、文献検索
5	演習：文献検索、論文作成（はじめに）
6	演習：論文作成（はじめに、事例紹介）
7	演習：論文作成（看護の実際）
8	演習：論文作成（看護の実際）
9	演習：論文作成（考察）
10	演習：論文作成（考察～結論）
11	演習：抄録作成
12	演習：抄録作成、発表会役割分担、卒論委員会結成
13	演習：抄録作成、印刷、抄録集の作成
14	ケーススタディ発表会
15	ケーススタディ発表会、評価
履修上の要件	1年次：情報科学を履修，パソコン操作の基礎を学習、看護研究の基礎
テキスト、教材、 参考書	松元 孚：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 パソコン、プロジェクター
成績評価の方法	出席状況、研究論文、抄録、発表態度
備考	抄録集を作成する。卒業論文として取り組み、発表会で発表する。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（管理）		寺師 敬子		2 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	（10）	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	目標管理、ケアのマネジメント、情報管理、日本の医療制度、医療安全				
到達目標	システムの中で、組織の中で、自分の仕事の機能を考え、全体とその中の個として問題解決ができ、看護の質をあげていくことができる。				
事前学習	テキスト・・・看護管理を読む				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	目標管理
2	業務遂行（ケア）のマネジメント、情報共有の仕組み
3	日本の医療制度と病院経営、医療におけるサービスの構造
4	医療安全の基本的考え方 演習：医療事故の事例検討
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	看護学概論Ⅰ 「看護サービスの管理」を終講
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合Ⅰ 看護管理 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	看護管理（国際）及び（災害看護）と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（国際）		寺師 敬子		2 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	（10）	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	グローバルヘルス、国際保健の指標、国際協力、プライマリーヘルスケア				
到達目標	国際的視野を持つ（世界の健康の不平等、国境を超えて健康を守る）				
事前学習	テキスト・・・国際看護学を読む				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	グローバリゼーションと看護、国際保健
2	グローバルヘルス、国際保健の指標
3	ジェンダーギャップ、国際協力
4	国際労働と看護師不足（外国人看護師問題）
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	看護学概論Ⅰ「国際化と看護」を終講
テキスト、教材等	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学
成績評価の方法	筆記試験
備考	看護管理（管理）及び（災害看護）と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理（災害）		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	（10）	教室・実習室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	災害医療、災害看護、被災者特性、トリアージ、PTSD、ASD CSCATTT、災害訓練				
到達目標	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、更に、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を理解できる。				
事前学習	救急医療、災害医療				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	1. 災害医療の基礎知識：災害の種類、災害サイクル 2. 災害看護の基礎知識 災害看護サイクルに応じた災害看護 ① 急性期・亜急性期 ・被災病院における初動体制 ・救護所とトリアージ
2	災害サイクルに応じた災害看護 ② 亜急性期～慢性期・復興期 ・避難所における被災者の生活
3	3. 被災者特性に応じた災害看護 要配慮者・避難行動要支援者とは
4	4. 災害とこころのケア ・ADSとPTSD ・救護者自身のこころのケア
5	終講試験
履修上の要件	特になし
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	看護管理（管理）及び（国際）と併せて1単位とする。 大規模災害訓練実施時は3・4回目に参加

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論実習		山城 歩		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (90)	大島郡医師会訪問看護ステーション 生協訪問看護ステーションあまみ	前期 後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	個々の家族を含んだ対象の状況に応じた在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ				
到達目標	<町村保健センター> 市町村保健センターの実習を通して、地域社会の住民への保健サービスを学び、看護の役割を理解する <訪問看護ステーション> 地域で療養する人々やその家族を理解し、在宅看護における看護の機能と役割の実際について学ぶ				
事前学習	地域保健、介護保険等の法律について 在宅看護技術、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、在宅におけるターミナルケア、緊急時の看護等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～5 日目 <市町村実習>	1 日目は学内で市町村実習及び訪問看護ステーション実習について教員のオリエンテーションを受ける。 2 日目から各市役所、役場での実習を行う。 - 各事業について事前、事後学習レポートを提出 - 各事業に同行・参加し市町村における地域サービスを学ぶ - 市町村実習最終日に反省会を行う
6 日目～15 日目 <訪問看護ステーション実習>	- 学生は1 事例受け持ち利用者の看護過程を展開する - ケースカンファレンスを実施する。 - 受け持ち以外の利用者宅を訪問看護ステーションのスタッフとともに訪問し、訪問看護の実勢を学ぶ。 - 訪問看護ステーション実習最終日に反省会を行う。 - 最終日に学内実習にてカンファレンス・リフレクションを行う。
履修上の要件	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ～Ⅲを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項、系統看護学講座 在宅看護論 医学書院
成績評価の方法	在宅看護論実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	各実習施設への通学手段は学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は事前に施設へ連絡が必要 新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合実習		学内教員		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (90)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術態度を統合して看護実践力を身に付ける。				
到達目標	1. 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2. 就寝前の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解する。 3. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 4. 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～15 日目	実習の進め方 1) 実習内容 ①管理実習：看護管理について臨床講義 病棟管理者の役割 ②複数患者を受け持つ看護師のシャドウイング ③複数患者（2 名）を受け持つ実習 ④夜間実習 1 日 （13：30～21：30） ⑤夜間実習の振り返り ⑥1 日目、11 日目、15 日目は学内実習 2) 1 グループ 5 名～6 名 教員は 1 名配置 夜間実習は教員は巡回指導 3) 複数受持ち以外のケアは原則として実施しない。 実習記録：実習計画、実習日誌、経過記録、看護管理レポート 他
履修上の要件	領域別実習はすべて履修していることが望ましい 統合演習ステップⅠ・Ⅱは履修していること
テキスト、教材、参考書	実習要項 看護管理、医療安全ワークブック
成績評価の方法	出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。